

## 優良経営体事例

# 多田いちご農園

調査日	平成27年3月12日
所在地	小豆郡土庄町豊島家浦
URL	<a href="https://ja-jp.facebook.com/hajime.tada.73">https://ja-jp.facebook.com/hajime.tada.73</a>
経営主	多田 初（50歳）
主要事業	施設野菜部門 加工・販売部門
主要作目	施設イチゴ2,640㎡ 加工品（ジャム、ケーキ等）
就農タイプ	新規就農（非農家出身）
労働力	本人、妻
従業員	常勤1名 臨時雇用1名、研修生1名

## ヒストリーあらすじ

・多田初氏は東京生まれ、埼玉県で育つ。喘息の療養で小学6年の1年間を母の故郷「豊島」で過ごす。牛を飼育し、牛糞を堆肥にして農作物を栽培する循環型農業に取り組む祖父母の姿にあこがれる。

・酪農経営を目指して大学に進学。しかし、農地がないため、一時期、飲食関連企業に就職。コックや経営の勉強を積んだ後、脱サラして平成8年に豊島に1ターン就農する。

・産業廃棄物投棄事件の影響で“ごみの島”のイメージとなった豊島において、産業としての農業の復興を掲げて、イチゴの高設栽培に平成11年から取り組む。イチゴの特産化、雇用の創出、仕事の創出を目指す。

・非農家出身で農地探しに苦労した経験から、島外からの新規就農者には自身のハウスを貸して就農支援。また、イチゴを島内で販売したり、クレープやアイスクリームなどを販売するデザートショップも開店。将来的にはイチゴ以外の作物や家畜の導入、観光農園化も考えている。また、法人化も目指し、安定化も図る。

・農業を基盤に豊島で生きていけるという“希望”を子供たちや島外の人に示そうと日々奮闘している。

## エッセンス

### ●新規就農の苦労

- ・豊島で祖父母が農民福音学校の指導者として循環型農業の実践に接して、「豊島で農業をする」を将来の夢とした。
- ・1ターン就農したものの、ゼロからのスタートとなり苦労して高設イチゴ栽培に取り組んでいる。

### ●地域のつながりでイチゴ栽培

- ・産業廃棄物の投棄で有名になった豊島をイチゴを島の特産品として確立し、豊島をPRしたい。
- ・島外出身者も含めて昔のように豊島が農業で成り立ち、雇用も生み出せる地域でのイチゴ栽培を目指している。

### ●産業としての農業の復興（6次産業化）

- ・瀬戸内国際芸術祭を機会に農業の6次産業化に本格的に取り組む。農産物の生産だけでなく、加工から販売、消費者交流まで幅広い分野を目指している。
- ・豊島で子供や若者が農業で生きていける基盤に結び付けたい。農業で生活できることを島内、島外に広く伝えて地域の活性化



イチゴ収穫中の多田初氏



家族全員が笑顔で農業に魅力を



いちご家の人気メニュー



地元の小学校の農業体験学習の受入(イチゴの時期:週2回)



左:イチゴ箱詰め作業 右:イチゴ苗の定植作業



妻とイチゴのコンポート作り

# 多田いちご農園 ヒストリー

就農前	就農・模索期 (平成8年～11年)	転換期 (平成12年～20年)	確立期 (平成21年～24年)	発展・将来構想 (平成25年～)
<p>●小学生時代の体験が農業への原点</p> <p>喘息が持病</p> <p>祖父母の豊島で療養(小学6年生)</p> <p>祖父母の農作業の手伝いや循環する自然の営みを実感</p> <p>将来の夢「豊島で農業をする」</p>	<p>●平成9年 岡山県笠岡市の酪農家で就農研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夢であった畜産業は厳しい(BSE問題等)</li> <li>・何で生計を立てるか模索中</li> </ul> <p>↓</p> <p>豊島がゴミ不法投棄で一躍有名風評被害に立ち向かい、島の活性化のためには、豊島で農業を営む自分等が何とかすると決心</p> <p>H8 豊島に移住 H9 結婚</p>	<p>●平成13 イチゴ栽培の規模拡大(1,590㎡)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初の栽培面積(10a)では、専業農家として自立は難しい。</li> <li>・3年目に規模拡大用の農地を探したが、地域の厳しさを実感する。</li> <li>・祖父母の地元でも多田氏はよそ者扱いであったが、1年かけて粘り強く交渉し、理解者も現れてやっとの思いで農地を借りる。</li> </ul> <p>計画の苦労</p>	<p>●平成21年 デザートショップいちご家を開設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性起業支援事業を活用してイチゴの加工場と販売店舗を夫婦で開設。(責任者は妻)</li> <li>・「やるなら本格的に」との思いから芸術祭1年前に開設して、製品化の準備期間とした。</li> </ul>	<p>●独立就農希望者への支援(施設の貸し出し)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の規模拡大時の苦勞から、2棟ある内の1棟のイチゴハウスを島外からの若者に任せて、独立就農まで支援</li> </ul> <p>地元小学生の地域学習の農業体験を積極的に受け入れ</p>
<p>●まずは農業外で経験</p> <p>酪農学園大学で学ぶ</p> <p>飲食関係企業に就職</p> <p>将来のために食に通じる仕事を!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飲食企業で都内サラダバーのマネージャーとして3年間勤務</li> <li>・こだわりの野菜(有機キュウリ)や取引先の農家との交渉等を行う</li> <li>・農業の抱える問題や農産物の販売や流通について考えさせられる</li> </ul> <p>企業でやりたいことはやった満足! 消費者、企業、農家の三者に利益をもたらす農業を考え、実践を決意する。</p>	<p>●就農資金の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島内の漁家でアルバイト</li> <li>・奥さんの実家(米子市)でとび職アルバイト</li> </ul> <p>●平成11年 高設イチゴ栽培の開始(1,050㎡)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊島の活性化として高設イチゴ栽培導入事業の話があり、4戸の農家が取り組むこととなる。</li> <li>・最初は父親が参加、その後、初氏が中心となる。</li> <li>・島外(三木町)のイチゴ農家を視察しながら技術習得してイチゴ栽培開始。</li> </ul> <p>1年目の出荷は、技術力の不足もあり、年内は未出荷、年間の収量も低かった!</p>	<p>●イチゴ栽培面積(2,640㎡)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年目でようやく黒字経営</li> <li>・収量も増加、生活も徐々に安定</li> </ul> <p>高潮被害でハウスの半分が倒壊(H16)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス復旧のために借金</li> <li>・経営的にも厳しい時期を迎える</li> </ul> <p>瀬戸内国際芸術祭2010が豊島でも開催されことが決定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・島外から観光客が期待できる</li> <li>・農産物の生産だけでなく、加工から販売、消費者交流まで幅広い部門、6次産業化を目指す。</li> <li>・島の特産品化とPRのチャンス</li> </ul>	<p>●瀬戸内国際芸術祭が開催</p> <p>H22(2010年)108日間 島外からの観光客が急増</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イチゴを使ったかき氷やクレープ、ソフトクリームを中心に販売。</li> <li>・地元の要請でランチや弁当販売も開始</li> <li>・地元高齢農業者の野菜直売コーナーも設置</li> </ul> <p>土産用商品も開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自家製イチゴジャム</li> <li>・菓子業者と共同でイチゴのロールケーキ等</li> </ul> <p>生産だけでなく多角的な経営に取り組む</p>	<p>●瀬戸内国際芸術祭2013(H25)が開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間数万人が来島</li> <li>・平成28年開催も決定</li> </ul> <p>●将来構想 農業生産法人化 観光農園(観光ツアー)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちや若者が豊島を愛し、豊島で生きていくことを選び、生活していけるだけの農業と関連産業の基盤が整備された豊島になるために日々奮闘する。</li> </ul> <p>少しでも将来、豊島で農業をしたいと思う子供たちを残したい</p>

多田いちご農園 <課題と対応策>

フェーズ		就農・模索期 平成8年～	転換期 平成12年～	確立期 平成21年～	発展・将来展望
主な出来事		●豊島に移住 ●結婚 ●就農準備 ●イチゴ栽培開始	●高設イチゴ栽培拡大	●デザートショップ開店 ●6次産業化 ●農業記録賞	●農業生産法人化 ●観光農園(観光ツアー)
経営課題	ヒト・組織	祖父母の地縁だけ、人脈希薄	農地借地の苦労		
	土地・設備	ゼロからの出発(借地)	ハウス増設	加工施設・店舗	観光農園
	カネ	アルバイト等で就農資金準備 JAからの借入金	JA借入、農業改良資金 農林公庫資金(災害復旧)	総務省補助(加工施設)	無借金経営
	技術・ノウハウ	島外農家への視察 アルバイト時代の技能活用	経験不足		加工製品の商品力向上
	販売・販路		JA系統出荷	JA出荷と直売出荷	島外観光客のリピーター インターネット販売
	情報	町役場、JA、県		他県の農家やシェフ、菓子業者 等の異業種とのネットワーク	
	地域	信用獲得に大変苦労		地域との関わり再確認	地域との連携
	具体的内容	・土地、資金、施設、信用等ゼロからの出発 ・資金準備のためアルバイト	・施設増設用の農地が借れない ・技術不足による低収量 ・高潮によるハウス被害 ・借金の返還が負担	・夫婦で加工製品の試作 ・高齢者の直売コーナー ・島外出身の研修生の受入れ	
対応策	・島内漁業者やとび職のアルバイト(特にとび職経験は、ハウスの復旧等に役立った)	・島外生産者の視察、技術習得 ・補助事業や無利子の借入金、親類からの資金借入 ・地元の理解者の農地借地仲介	・毎日農業記録賞に応募 ・イチゴ生産部会の若手指導 ・6次産業化計画策定 ・デザートショップ開設	・農業法人化で雇用の安定 ・観光ツアーで消費者交流 ・子供たちの豊島への愛着促進 ・JA系統出荷以外の拡大	
外部環境	※豊島活性化事業の開始 ※豊島の産廃問題		※瀬戸内国際芸術祭2010 ※豊島の農業PR	※瀬戸内国際芸術祭2013 ※瀬戸内国際芸術祭2016開催予定	